

# ジャーナリスト

THE JOURNALIST

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)  
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8 松村ビル4F  
電話 03-3291-6475 FAX 03-3291-6478  
メールアドレス: jcj@tky.3web.ne.jp http://www.jcj.gr.jp  
年間購読料 3,000円 (送料込み) 振替 00190-2-76501



2012.5.25

## NHK数士氏を東電役員に内定 労組・市民団体、反対運動



各紙がこの問題を素早く取り上げた。(写真は東京新聞19日付、毎日新聞21日付)

### 公共放送の原則に反する！

東京電力は5月14日、NHKの数士文夫経営委員長を在籍のまま東電の社外取締役役に内定すると発表した。就任は6月末の予定。

福島第一原発事故から1年以上経っても、事故の収束さえままならないなど、東京電力を取り巻く環境は依然厳しいままである。しかも東京電力は

政府権力からの自主自立を掲げる公共放送の最高責任者たる経営委員長が、営利を目的とした民間企業と政府機関としての性格を併せ持つ東京電力の経営陣に加わることは、公共放送の原則に反する行為に他ならず、今回の人事に同意した数士氏の姿勢にも疑問を感じざるを得ない。

また、原発事故の当事者として取材対象になっている企業の取締役に、言論報道機関のトップが就任することが、果たして視聴者の納得を得られるだろうか。

この点について川端総務相は15日、「経営委員は個別の放送番組の編集について干渉する行為はできない」と放送法で決められている」として、数士氏の人事には問題ないと発言、また枝野経済産業相も同様の発言をしている。

JCJは毎年6月にとぎどきの社会問題をテーマにしたジャーナリストと市民による集いを開いている。

今年は6月16日(土)午後、橋下徹大阪市長の政治手法を点検するテーマを掲げて開催する。ファシズムにつながるその言動、政治手法などを、第一線のジャーナリストを招いて、総合的に検証する。

憲法第9条を目の敵にする右翼の急先鋒、橋下

「ハシズムで日本は沈む」  
6月集会、16日に明治大学で

市長の正体をメディアはもっと究明する必要がある。その足がかりになることを願って、日本ジャーナリスト会議は6月集会のテーマを決めた。

橋下徹大阪市長によるパフォーマンス政治は何を生み出すのか。既得権益に安住していると称し、公務員や市民の中に「小さな敵を見つけ出して、道徳に反する」として徹底

HKをめざす全国連絡会などが見解を発表し、数士氏に就任の意思の撤回や、経営委員としての辞職を迫るなど、批判が高まっている。また、視聴者などで作る「放送を語る会」では、緊急集会を開いて、問題の本質についての討論を深めることにしている。

石井長世

### またも「改憲の季節」

藤森研



この春、憲法改正をめぐって新たな動きが目立つ。自民党は4月27日に「日本国憲法改正草案」を公表。たちあがれ日本は「自主憲法大綱(案)」を、みんなの党は「憲法改正の基本的考え方」を発表し、産経新聞社は来年「新憲法要綱」を示すことを予告した。

下徹・大阪市長に一種のうつつん晴らしを託すような「橋下現象」や、たちあがれ日本が関わる石原新党構想なども一部に

怪しくなる。国民は、「国旗、国歌を尊重しなければならぬ」、自衛隊を「国を」守り、自由や権利は「常に公益及び公の秩序に反してはならない」存在とされる。9条は改定され、日本は国防軍を保持して、機

「複合災害への備えを欠くマニニアル、政治家の基本的な認識不足、官僚機構の人材不足など(民間事故調)であって、憲法に緊急事態条項がなかったためではない。現実の改憲を狙って抑制的だった自民党の05年案に比べ、今回の案が乱暴なのは事実だ。ただ、世に侮られていたナチスがどきどきに政権を奪うや独裁を確立した歴史劇もある。衆・参院の憲法審査会は昨秋から、そろりと動きを始めた。何が起きるか、「想定外」にも備えを忘れまい。

(専修大学教授)

### 復古調・国家主義色濃く 緊急事態に便乗 自民は存在誇示

最近の改憲の動きには、1950年代や90年代のような熱や広がりはない、今のところない。ただ政権交代に失望し、橋

頭をもたげる。政治、社会が不安定な状況にあるだけに、侮らずに目を凝らすことが必要だ。

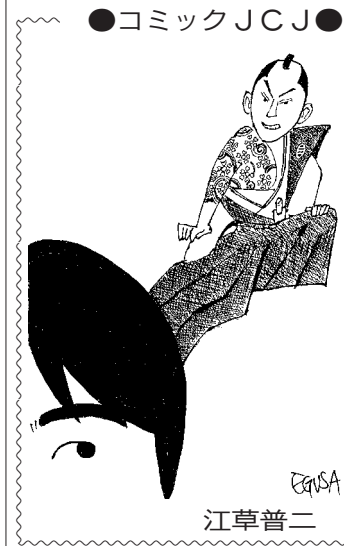
今春の諸改憲案の特徴は、保守層の年来の願望

の主張は、たちあがれ日本や、みんなの党にも共通する方向性だ。

憲法は権力を制約するものだ、という立憲主義も自民改憲案ではかなり

さらに、憲法改正は衆・参院の3分の2でなく過半数で発議できる、とする。たちあがれ日本などの案にも共通する改正点で、全面改憲をぶち上げて、実際の歩留まりで最低限これさえ実現すれば、後は次々に改憲を進めていく狙いが明白だ。

改憲案作成の動機は、「講和60年の節目」などとされるが、3年目の野党の自民には、存在誇示の意味合いもある。東日本大震災という「緊急事態」に便乗するものとも言われるが、たとえば原発事故対応の教訓は、





# 文化滅ぼす橋下政治

「文楽は大阪が世界に誇る日本の文化」赤川次郎氏  
「世界の宝を絶やすな」ドナルド・キーン氏

作家赤川次郎氏が「朝日」声欄に投稿した「橋下氏、価値観を押しつけるな」が、話題を呼んでいる。

警鐘を鳴らしていることのひとつは、教師が「君が代」を歌っているかどうか管理職が口元チェックしたこと。

「それにしても生徒のためのものではあるはずの卒業式で、管理職が教師の口元を監視する。何と醜悪な光景だろう！ 橋下氏は独裁も必要と言っているそうだが、なるほど『密告の奨励』は独裁政治につきものである」もう一つは「府知事時代、橋下氏は初めて文楽を見て、こんなもの二度と見ないと言いつつ、補助金を削減した」こと。

赤川氏は「文楽は大阪が世界に誇る日本の文化である。理解力不足を棚に上げ、自分の価値観を押し付けるのは、『力強い指導力』などは全く別物である」と喝破している。

文楽について大阪市長になった橋下氏は、「文楽は守るが、文楽協会は守らない」などと意味不明のことを言いつつ、当面補助金の25%削減とアーツカウンシルによる第三者評価の導入を発表したが、これまでの橋下氏の言動から見て、この削減でどこまでという保証はない。

こうした中、季刊誌『上方芸能』2012年6月号が「特集 文楽を守れ！ 132氏からの熱いメッセージ」を組んでいる。

特集では、同誌発行人の木津川計氏が「われら切られる側の論理―橋下徹氏の文化観批判」で、橋下氏が「公金を入れないと成り立たないものは文化ではない」と言っていることに真っ向から反

論、文化行政のありようを明らかにしている。また、元芦屋大学学長倉光弘己氏は「われわれも説得や懇願するのではなく、『なにわの伝統文化をタメにしたのは橋下さんあなただと言いますよ』と、しっかりと橋下流の恫喝をしてゆくことも忘れてはなるまい」と書く。

赤川氏はこの特集とも相通じる言葉で、投稿を締めくくっている。

「過去に学ぶ謙虚さを持ち合わせない人間に未来を託するのは、地図もガイドもなく初めての山に登るのと同じ。一つ違うのは、遭難するとき、他のすべての人々を道連れにするということである」。(N)



今年のJCJ6月集会チラシ

特集では、同誌発行人の木津川計氏が「われら切られる側の論理―橋下徹氏の文化観批判」で、橋下氏が「公金を入れないと成り立たないものは文化ではない」と言っていることに真っ向から反

論、文化行政のありようを明らかにしている。また、元芦屋大学学長倉光弘己氏は「われわれも説得や懇願するのではなく、『なにわの伝統文化をタメにしたのは橋下さんあなただと言いますよ』と、しっかりと橋下流の恫喝をしてゆくことも忘れてはなるまい」と書く。



今年の憲法集会

始動や自民党などが改憲草案提起の動きと一体で、従来から9条改憲を指向してきた全国紙はトーンを高めた。

読売新聞は社説「改正論議で国家観が問われる」で「緊急事態条項の必要性」「国防軍創設」「集団的自衛権の行使明確化」などを「いずれも妥当」とした。産経新聞も「自力で国の立て直し図れ、今のままでは尖閣守れない」という。日経新聞も「改憲論議を前に進めよう」と盛り上げにつとめた。

## 憲法記念日の社説を読む

憲法施行65周年。東日本大震災・原発事故から1年2カ月、復興は遅れ、安全対策は見えず「生存権」は侵され続けている。沖縄返還40年「不平等」は続く。米軍基地の再編と「動的防衛力」の自衛隊強化は進む。平和主義 国民主

権、基本的人権の原則が破壊され空洞化している。各社説が憲法記念日に、この課題をどう論じたか、が問われる。

全体として、地方紙を中心に平和主義、主権在民、基本的人権を守り、憲法を生かし、生存権を確保するよう呼びかける論調が目立つた。

憲法の理念で復興を  
北海道新聞は社説「震災便乗の議論を危惧する」の中で、「憲法の理念を復興に生かすという

意識が与野党とも乏しい」と指摘しつつ、震災に乗じて改憲を推し進める動きを警戒した。「生存権の回復こそ」「被災者の踏みしめられた権利を一刻も早く回復すること」は国の役割であり、最優先課題であると強く指摘した。

東奥日報は「いま求められているのは被災者の基本的人権を早期に回復することだ」と述べ、岩手日報も「理念生かし復興の道」の中で「憲法が国民の生活や国の施策

に生かされているか、しっかりと問い続ける」と主張した。

福島民報は「震災と憲法『居住の自由』回復急げ」で「人権を脅かす事態が目立つ。避難区域、帰還困難区域の回復見通しも立たない」と憲法25条を強調した。

中国新聞は「原点みつめ生かす道を」と、「憲法上の権利が乖離するばかりの現実。手を打たない政治、怒りと失望を覚えている国民も多い」と糾弾した。その上で、自民党の改正草案の「9条に国防軍創設明記」、前文から「全世界の国民が平和のうちに生存する

権利」を削除したことと指摘した。徳島新聞「憲法の理念に立ち返る時だ」西日本新聞「誰もが希望持てる社会の礎に」と憲法を生かす立場を論じた。

琉球新報は社説「活憲で命輝く／沖縄は不沈空母ではない」の中で、日米政府が「軍事的思惑を優先」し「実効性のない負担軽減の屋上屋を架している」と批判。米軍再編と軍事協力「動的防衛

性」と「不断の努力」を指摘した。徳島新聞「憲法の理念に立ち返る時だ」西日本新聞「誰もが希望持てる社会の礎に」と憲法を生かす立場を論じた。

琉球新報は社説「活憲で命輝く／沖縄は不沈空母ではない」の中で、日米政府が「軍事的思惑を優先」し「実効性のない負担軽減の屋上屋を架している」と批判。米軍再編と軍事協力「動的防衛

性」と「不断の努力」を指摘した。徳島新聞「憲法の理念に立ち返る時だ」西日本新聞「誰もが希望持てる社会の礎に」と憲法を生かす立場を論じた。

琉球新報は社説「活憲で命輝く／沖縄は不沈空母ではない」の中で、日米政府が「軍事的思惑を優先」し「実効性のない負担軽減の屋上屋を架している」と批判。米軍再編と軍事協力「動的防衛

真正面から改憲主張  
国会での憲法調査会の

いまま、9条改憲派が勢いづいているのに、9条改憲に反対してきた朝日新聞が改憲論議を避け、焦点をはずした。

社説「われらの子孫のために」では「貧困層への目配りが弱い」「25条まで知らず知らず奪ってい

ていないか」、教育、雇用、年金など「利害対立があるのか」と問いかけ、憲法記念日に想像する力が試されている」と言う。国民とともに歩み、国民が強く求めている「憲法を生かす」視点が希薄だ。自らの「ジャーナリズム性の貧困」への目配りが弱くないか、力が試されている。

毎日新聞は社説「論憲深化 統治構造から切り込め」と題して改めて論憲を主張した。「9条論議を避けるわけでない」と言いつつ「9条に費やされた膨大な議論のエネルギー」を別の新しく提起された課題にも振り向けるべきだ。「改憲が護憲か、を背負う政治勢力になることではない」と言う。



「憲法の日」パレード

9条に立脚せず、あいまいにしたままの「論憲」では改憲派にすり寄る優柔不断な姿勢に陥っ

ていないか」、教育、雇用、年金など「利害対立があるのか」と問いかけ、憲法記念日に想像する力が試されている」と言う。国民とともに歩み、国民が強く求めている「憲法を生かす」視点が希薄だ。自らの「ジャーナリズム性の貧困」への目配りが弱くないか、力が試されている。

毎日新聞は社説「論憲深化 統治構造から切り込め」と題して改めて論憲を主張した。「9条論議を避けるわけでない」と言いつつ「9条に費やされた膨大な議論のエネルギー」を別の新しく提起された課題にも振り向けるべきだ。「改憲が護憲か、を背負う政治勢力になることではない」と言う。

毎日新聞は社説「論憲深化 統治構造から切り込め」と題して改めて論憲を主張した。「9条論議を避けるわけでない」と言いつつ「9条に費やされた膨大な議論のエネルギー」を別の新しく提起された課題にも振り向けるべきだ。「改憲が護憲か、を背負う政治勢力になることではない」と言う。

毎日新聞は社説「論憲深化 統治構造から切り込め」と題して改めて論憲を主張した。「9条論議を避けるわけでない」と言いつつ「9条に費やされた膨大な議論のエネルギー」を別の新しく提起された課題にも振り向けるべきだ。「改憲が護憲か、を背負う政治勢力になることではない」と言う。

「一枚マンガの原発と新エネルギー展」  
会期 7月1日(日) 時間 10時〜17時  
主催 東京新聞 日本新聞博物館  
後援 神奈川県教育委員会 横浜市教育委員会 新聞紙面などメディアの第一線で活躍する漫画家やイラストレーター34人が「原発」と「新エネルギー」をテーマに描いた作品68点を展示する。期間中は漫画家によるシンポジウムや似顔絵教室、工作教室を開催。新聞博物館の入館料は、一般・大学生が400円、高校生300円、中学生以下 無料 問い合わせ 045-661-2040



# 脅かされる市民の表現行動

## 秘密保全法案・デモ・ビラ規制でシンポ



逮捕で欠席のパネリスト園氏の席が空席のまま開かれた、憲法メディアフォーラム開設7周年記念シンポジウム＝4月21日、東京都文京区の文京区民センターで、酒井憲太郎撮影

### 発言予定者が身柄拘束

政府が指定する外交・防衛・公安情報を漏洩した公務員や民間人に厳罰を科す「秘密保全法案」については、市民や労働組合などの幅広い反対で、今国会提出が事実上、見送られている。

しかし、最近ではビラまきや街頭デモなどで逮捕される人が続出するなど、市民の表現の自由に対する制約がかけられている印象が強くないだろうか。

こうした状況を受け、メディア関係の労働組合で構成する日本マスコミ文化情報労組会議（MIC）と日本ジャーナリスト会議（JCJ）が共同で運営するサイト「憲法メディアフォーラム」の開設7周年を記念して、シンポジウム「表現の自由が危ない！〜秘密保全法案とデモ・ビラ規制」が4月21日、都内で開かれ、労働組合関係者や市民・学生などが集まった。

ところが、パネリストとして出演を予定していたフリーライターの園良太さん（31）が、東京・江東区の堅川公園での野宿者排除に対する抗議活動の中で逮捕・起訴されたうえ、起訴後の勾留で

東京拘置所から出てこられないという事態に見舞われた。

当日は園さんの支援者が近況報告を行い、また園さん自身は、弁護士を通じて「私も一日も早く解放を勝ち取り、合流するので、皆で頑張りましょう！」とするメッセージを寄せてくれた。また会場では、園さんたちが企画した当時の麻生太郎首相の渋谷区内の私邸を見にゆく「麻生邸リアリテイツアー」の際に、園さんが路上で警察に逮捕される様子を撮影した動画も上映された。

シンポジウムの基調講演で、憲法学者の阪口正二郎・一橋大学教授が、国家による表現規制の背後には「空気を読め」といった世論の存在があることを指摘。こうした層への働きかけが運動の展開上欠かせないことを訴えた。続いて筆者が進行を務めたパネルディスカッションでは、日弁連事務総長の海渡雄一弁護士が、自身の原発関連訴訟の経験から「国は重要な情報を隠すものだ」と喝破。「日本の公安警察」の著者でジャーナリストの青木理さんは「公安による逮捕はいつ、どこで、誰に行われてもおかしくない」と警告を発した。岩崎 貞明（放送レポート）編集長

### JCJ運営委員会開かれる

## 会員の力を生かす方策を討議

定例の運営委員会は毎月第1金曜日の夜に開かれる。

12年度第1回の会議は4月6日に開催。JCJ総会や「脱原発、もう一歩前へ」集会の総括や、情勢討議の他に、会員・読者拡大活動について議論した。

新年度から、JCJ会員に会員や読者の拡大への協力をお願いする取り組みを始めた。

その経過報告に関連して、会員の力をどう運動に生かせるのか、入会後の会員とのコミュニケーションのとり方についての議論となった。

第2回、5月11日の運営委員会では、大阪の橋下政治をどう見るかが討議された。

マスメディアが橋下市長を安易に持ち上げる現状への批判とともに、6月集会の内容を活発に議論した。

善したいという会員一人ひとりの思いと能力をどう統合するのかが課題となった。

第2回、5月11日の運営委員会では、大阪の橋下政治をどう見るかが討議された。

マスメディアが橋下市長を安易に持ち上げる現状への批判とともに、6月集会の内容を活発に議論した。

6月9日に集会  
原発被災者の憤りに  
どう向き合うか  
放送を語る会

々木駅徒歩8分、小田急線南新宿駅徒歩6分、京王バス「宿51」系統代々木三丁目徒歩4分  
▼連絡先 090-2622-3074（尾崎）  
▼主催 放送を語る会  
▼協賛 日本ジャーナリスト会議 メディア総合研究所  
内容に変更がある場合は、下記ホームページでお知らせします。  
放送を語る会HP  
[http://www.geocities.jp/hoso\\_kataru-ken](http://www.geocities.jp/hoso_kataru-ken)

## リレー時評



J.C.J.代表委員 中村梧郎

ベトナム戦争中に「毒ガス埠頭」と呼ばれた沖縄のホワイトビーチ。大量の化学兵器や枯葉剤が戦地に向けて搬出された棧橋である。米海兵隊の新型強襲揚陸艦ボノム・リシャル号が接岸した3月9日、私はその現場にいた。海兵隊の隊り込み部隊としての能力を飛躍的に高める垂直離着陸機MV22オスプレイの配備。その母艦として機能するよう最新鋭の指揮システムや飛行甲板の改造がなされている。

## 沖縄の枯葉剤汚染に口づぐむ本土メディア

オスプレイはしかし墜落つづきの欠陥機である。それが7月に普天間基地に配属される。そのための入港であった。「本場に安全な機種なら米兵が非常線を張って、

普天間の住宅地で墜落したらおびただしい犠牲がでる。基地に隣接する沖縄国際大学。04年のヘリ墜落事件の時に、私は現場に飛んだが、米兵が非常線を張って、

ゆるメディアが特集を組んだ。沖縄の苦しみを本土の人々が共有しようとしなのが問題だと、テレビも社説もそれにまともな聞こえの言説を掲げた。だがそ

れも5月15日の復帰デーを過ぎるとまた元に戻った。二」とは沖縄に74%もの米軍基地を押し付けている事態のことであり、日米安保条約こそが抑止力だという論理を固守することである。「その日だけの言

葉」では苦しみの共有になりはしない。

普天間基地にオスプレイが配備されることについて、本土のどのメディアが反対してきたか。普天間の辺野古への

移設があつてはならぬと、どのように言い続けてきたか。問われているのは、沖縄の苦痛と重圧をどれだけ執拗に報じてきたか、なのだ。

沖縄の新聞がトップに掲げる記事が本土の新聞では1行も報じられないことがしばしばある。この度、テレビ朝日が、地元メディアの報道を受けてついに取り上げた「沖縄で米軍の枯葉剤使用が発覚」もその一つだった。

米軍による枯葉剤汚染問題は、小国ベトナムでさえ国が徹底的に調

べ、ダイオキシン汚染を公表し、責任は米国にあると毅然と指摘して、旧米軍基地の浄化を米国の予算で行わせている。韓国での汚染事件でも、米韓合同の調査が行われた。

一方、日本はどうか。外務省は米国に抗議しないばかりか、まるで汚染事件が無かったかのよう、現場の調査さえしようしない。米軍基地内でも調査できると日米地位協定に明記されているにもかかわらず、押し黙るばかりなのである。

### ●マウスの社会探訪●

#### フェイスブック 資産はユーザー9億人

@ユーザー9億人、世界最大のSNS・フェイスブックは株式上場とともに新株を1株あたり35ドルで売り出し、投資市場の熱い注目を浴びている。13歳以上であれば無料で参加できるが、実名登録が条件であり、個人情報の登録も必要となっている。そのため、趣味や職業、出身地など信頼性の高いユーザーのプロフィールが得られる。ユーザー同士の交流や、広告のターゲットとしてメリットが高い。

@フェイスブックの昨年の売上高は約40億ドルで、そのほとんどが広告収入である。上場企業としても史上3位に成長した同社だが、いくつかの問題も抱えている。その一つはGMが効果がないと掲載を打ち切ったように、広告価値が他メディアに優越しているかの検証である。もうひとつはセキュリティである。脆弱性が指摘され、強化策が施されているが、ユーザー拡大に有望なモバイルについては、なお改善の余地があるという。



# 大野晃の スポーツコラム

文科省が、「誰もが手軽にスポーツを楽しむ」環境づくりで、公共スポーツ施設不足を補うために積極的に推進してきた学校開放事業。ところが

東京都足立区議会は3月に、初めて公立学校施設の使用料徴収を決めた。文科省が推進する総合型スポーツクラブや少年団

んにそれまで無料の学校施設を有料とし、差別を持ち込むのはどうしたとか。基本法に基づく文科省のスポーツ基本計画が国民スポーツの振興を総合型クラブ推進に一面

## 大手振る行政の「基本法」軽視

昨年施行されたスポーツ基本法は国民のスポーツする権利を明記し、そのための環境整備を行政の責務と定めたが、とた

緊縮財政を名目にした行政の責務放棄が大権利侵害が国民スポーツにも重くのしかかるようにしている。公認されたばかりの新しい権利が骨抜きにされる危機にある。スポーツ基本法成立にともない、国民のスポーツ権を尊重するうえで同法成立以前の行政施策が同法とその精神に沿ったものかどうか総点検する必要があるのは言うまでもない。しかし、文科省のスポーツ基本計画は同

多くは米国へ流れる「などの事態が予想される。さらに、日本郵政グループのかんぽ生命保険が「がん保険」での新規参入を見送ることが今月初め、明らかになった。TPP参入の障害となる可能性が高いため、事前に米国に配慮したものとみられている。

「原発稼働ゼロ」になつた翌6日、大阪府吹田市にある万博記念公園に出かけた。この公園は名前の通り、1970年、約半年にわたって開かれた日本万国博覧会の会場跡地を公園化した施設。緑豊かな中で四季折々の花々が楽しめるあつて、府民の憩いの場にもなっている。

まさに万博のスローガン「人類の進歩と調和」を象徴するかのようであつた。同年8月8日からは関電美浜発電所1号機からも万博会場へ試験送電された。

## FTA締結の韓国視察報告

# TPPで医療改悪の恐れ

日本が参加を目指すTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に関連し、一足先に米国とのFTA（自由貿易協定）を締結した韓国の実情を知ろうと、大型連休中に京都府保険医療協会主催の韓国医療視察

に同行した。「医療はTPPの対象外」と日米政府関係者は口を揃えるが、交渉の進展次第では大きな波紋を巻き起こす可能性が高いことが分かってきた。TPPは米国と日本で

加盟国のGDP（国内総生産）の9割以上を占めるため、「日米FTA」の色合いが濃い。TPPではFTAよりさらに投資やサービスなど幅広い分野での市場開放が求められる、例外は原則として認められない。米国がらみのFTAは、以前からの交渉を積み上げていく側面が強いのも特徴だ。

米韓FTAへの批判が強い韓国で、医療への営利企業の参入を認める法案が4月にあっさり成立した。「薬価削減政策無力化」（米商務省04年11月報告）の側面も強く、医療機器についても同様で「医療費は上昇し、その

杉山正隆（運営委員＝写真も）

写真・文＝西田和憲



韓国の5大病院グループの一つ「イナ大学病院」では、FTAをにらみ最新鋭の「サイバーナイフ」を導入し、外国人患者の誘致にも積極的だ

ISD（投資家・国家仲裁制度）条項」は、米国を中心とした多国籍企業が日本などの相手国の政策などにより損害を受けたか、受ける恐れがある時は米国を中心とした弁護士で構成される機関に提訴できる規定だ。他に「ラチェット（後戻り禁止）規定」などが盛り込まれ、多国籍企業側に

「復帰」とは何だったのか？ 無表情に屈辱を強要し続ける日本植民地主義

「基地のない平和な沖縄」への強い願い。それが「平和憲法の日本」への復帰運動となって広がっている。復帰は実現したが、40年前のこの日、島に渦巻いていたのは喜びではなく怒りと屈辱であり、島の人口の3分の1を失った激しい地上戦、その後27年間の米軍占領・圧政下で燃え上がった

沖縄リポート

浦島悦子

## 「大阪万博と原発」

「原発稼働ゼロ」になつた翌6日、大阪府吹田市にある万博記念公園に出かけた。この公園は名前の通り、1970年、約半年にわたって開かれた日本万国博覧会の会場跡地を公園化した施設。緑豊かな中で四季折々の花々が楽しめるあつて、府民の憩いの場にもなっている。

「人類の進歩と調和」を象徴するかのようであつた。同年8月8日からは関電美浜発電所1号機からも万博会場へ試験送電された。

## 不定点観測

私のフォーカス

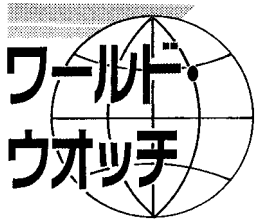


入場者の多くは太陽の塔をバックに記念写真を撮っていた

それから42年、今や「安全神話」は崩壊し、「原発ゼロ」への流れが大河となりつつある。そんな想いで公園入り口を入った途端、目に飛び込んできたのが岡本太郎作の太陽の塔。今も圧倒的な存在感を示している。太陽の塔を見ながら「人類の進歩と調和」とは何なのかを、改めて考えさせられた。



伊藤力司の



社会労働党が敗北して政権が交代した。今年4月にはオランダで内閣が総辞職に追い込まれた。

失業率の増大、年金受給年齢の繰り下げ、社会

メルケル・ドイツ首相が

新大統領は選挙戦で、緊

訳にはゆくまい。

5月6日に行われたフランスの大統領選挙、ギリシャの国会選挙で、与党側はともに敗北に追い込まれた。欧州統一通貨ユーロを守ろうとする欧州連合(EU)当局と加盟国政府に、緊縮一点張りの財政政策を迫ってきた市場に有権者は「ノー」を突きつ

けたのだ。

昨年11月、債務危機の渦中でギリシャのパパンドレウ、イタリアのベルルスコーニ両首相が退陣、スペイン総選挙ではサパテロ首相の与党、

保障費の削減……。欧州で政権をなぎ倒してきたのは緊縮政策に反発する庶民の怒りだ。EU首脳会議で剛腕を振るい、「ポリティカル・アニマル(政治的動物)」の異名をとったサルコジ仏大統領も例外ではなかった。

この総選挙では、緊縮政策に真っ向から反対した急進左派連合が第2党に躍進、同党が次期

フランスのオランダ

## EUの緊縮政策に民意は「ノー」

## 広島支部2012年度総会 市民とともに「危険な今」を学ぶ 井上正信弁護士が秘密保全法で特別講演



新事務局長を選出した広島支部総会(4月28日)。季刊「広島ジャーナリスト」や支部ホームページの内容充実のほか、映像配信も視野に。

JCJ広島支部は4月28日、広島市中区で開いた2012年度総会で「独自の機関紙・誌、ホームページ、インターネット放送局を足場に自由な言論、人権と民主主義と平和を担うジャーナリスト活動」を目指す12年度の活動方針を決めた。

総会後、日本弁護士連合会秘密保全法制対策本

部副本部長の井上正信弁護士が「秘密保全法の『秘密』を解く」と題して特別講演。会員外の市民も加わって「危険な今」を学んだ。

当面、8号まで積み上げた季刊「広島ジャーナリスト」と支部ホームページまでの道」「いま中

密漏洩を防ぐための秘密保全法制化について「動

る米の意向も考えられるという。

井上弁護士は、保護されるべき「特別秘密」が無限定であいまいな概念であることに強い懸念を表明。法制化は憲法の国

民主権と民主主義原理、基本的人権の保障、憲法9条の平和原則に反する。法制化を断念させるには「常に情報公開を求めていく持続的な国民の動きの広がりが必要になる」と呼びかけた。

総会を祝してJCJ本部をはじめ関西、岡山、福岡、岡山の各支部から連帯メッセージが寄せられた。

国地方の基地は「新防衛大綱を考える」「『黒い雨』と放影研」をテーマにした。本年度は講座を運営する事務局の体制強化と、より幅広い活動へ目配りしていく。

井上弁護士は、国家機

し、改ざんなどが相次いで明らかになっていると述べた。かつて廃案になった国家機密法の再来で、背景には新防衛大綱の策定、強まるばかりの日米軍事一体化があり、軍事情報の漏洩を危惧す

2012年度支部役員は次の通り。▽代表幹事 沢田正(再)▽副代表幹事 利元克巳(再)▽難波健治(新)▽事務局長 井上俊逸(新)

「創作劇を造り出すこと」を自らの集団の課題として出発した青年座も、今年で58年目を迎える。

その青年座が、「創立理念に立ち返る」として発足当時上演された演目の内から秀作を厳選し、年1本「青年座・セレクトシヨ」として上演を始めている。八木柊一郎作

この家の主婦(瀧野陽子)も、連日宣伝カーに乗って反対運動をしている。ところが自動車メーカーに勤める夫(大家仁志)の方

というように「国境のある家」とは、必ずしも池子をめぐる時事演劇ではなく、ある日本人一家の、現代の家庭劇である。

## 秘密保全法の背景には

### 「日米の軍事一体化」が

### 情報公開を求める国民的運動が

### 法制化を断念させる力に

神奈川支部  
4月例会

## さがみ生協病院医師 長谷川倫雄氏が講演 「食と放射能・内部被曝」

JCJ神奈川支部は、4月19日の横浜市健康福祉総合センターで例会を開いた。テーマは「食と放射能・内部被曝」。

放射能・内部被曝。被爆者の治療経験があり、原

爆症認定裁判にも関わっているさがみ生協病院医師の長谷川倫雄氏の講演だ。

長谷川氏はまず「標的

「創作劇を造り出すこと」を自らの集団の課題として出発した青年座も、今年で58年目を迎える。

その青年座が、「創立理念に立ち返る」として発足当時上演された演目の内から秀作を厳選し、年1本「青年座・セレクトシヨ」として上演を始めている。八木柊一郎作

この家の主婦(瀧野陽子)も、連日宣伝カーに乗って反対運動をしている。ところが自動車メーカーに勤める夫(大家仁志)の方

というように「国境のある家」とは、必ずしも池子をめぐる時事演劇ではなく、ある日本人一家の、現代の家庭劇である。



撮影 眞野芳書

## 青年座 『国境のある家』 米軍住宅反対運動を 背景に家族を描く

演劇回り舞台

この家には、

安住邦男



真実 新聞が警察に跪いた日

高田昌幸

## 「悪人はどこにもいない」——にがい痛烈な想い

今から10年近く前、北海道新聞が北海道警察の裏金問題を追及する大キャンペーンを繰り広げた。これが優れた調査報道だったことに異議を唱える方は少ないだろう。道警は裏金作りを認め謝罪する事態に追い込

にもかかわらず、その後の道新に起きた異常事態に疑義を突きつけないのはどうしたことか。本来なら、新聞界がこぞって声を上げ、問題提起すべきではなかったか。一旦は謝罪に追い込まれた道警は、その後

## 書評

### 本・BOOK・ほん

(価格は税別です)



法制化の時、本書にもあるように、政府は「強制するものではない」と繰り返して答弁していた。だが、法制化後は文科省・教育委員会による強制が全国で行われてきた。とりわけ東京や大阪の状況は過酷である。本書は、その強制の実態を詳しく紹介し、それに不起立などで抵抗する教員や保護者、生徒の姿を描き出している。憲法が保障する思想・良心の自由をはじめ、歴史観や生き方など強制に従わない人びとの思いは多様である。その思いや抵抗の姿を、リアルに丁寧に紹介している。「日の丸・君が代」の強制は、子ども・生徒・保護者にも及び、物言わぬ従順な国民をつくるねらいが本書によって明らかにされる。

ルポ良心と義務 「日の丸・君が代」に抗う人びと 田中伸尚

## 「国旗・国歌」を強制するのは 従順な総国民づくりのため!

「40秒足らずの〈君が代〉をとても長く感じた」——これは本書に出てくる不起立者たちの感想である。私も同じことを20年前に体験した。私は福岡県立鞍手高校定時制の卒業生だが、その同窓会総

さて、本書は、「日の丸・君が代」問題をライフワークの一つとして追求してきた著者が、1999年の国旗・国歌法制化後の学校現場をはじめ、全国各地の状況を丹念にまとめたルポである。

安保と原発 命を脅かす二つの聖域を問う 石田 雄

## 「国策」を「聖域」として守る 犠牲となった沖縄と福島



た構造に気づき、一緒に扱うように計画を変更したという。著者によれば、安保と原発はともに人間の生存を脅かす危うさをもっている。目下、その犠牲は沖縄と福島という「周辺」にしろよせされている。中央政府は「国益」という大義名分で反対や異論を抑え込み、「国策」を「聖域」として守ろうとしてきた。

それゆえ中央が周辺を犠牲にする近代日本の「発展の型」がいま問い直されなければならないという点について書く構想であった。だが、その途上で東日本大震災が起こり、原発事故に大変な衝撃を受け、安保と原発の共通し

もともと本書は、安保とそれに伴う軍事化の危うさについて書く構想であった。だが、その途上で東日本大震災が起こり、原発事故に大変な衝撃を受け、安保と原発の共通し



は「どこにもいない」と。裏金に手を染めた警官も、道新に陰湿な圧力を加えた道警幹部も、それに跪いた道新幹部にも「悪人はいない」と。組織の論理の中で、忠実に動いたに過ぎないのではないかと。詳しくは、本書を讀むと、反響に乗り出した道警がどう動き、道新がなぜ跪くようになったか、その情景が浮上してくる。

結果、取材班の記者たちは軒並み編集の中枢から外され、幾人かは道新者は最後に書く。「悪人

は「どこにもいない」と。裏金に手を染めた警官も、道新に陰湿な圧力を加えた道警幹部も、それに跪いた道新幹部にも「悪人はいない」と。組織の論理の中で、忠実に動いたに過ぎないのではないかと。詳しくは、本書を讀むと、反響に乗り出した道警がどう動き、道新がなぜ跪くようになったか、その情景が浮上してくる。

## 短歌

### 現代の窓

評・小石雅夫

小島ゆかり (「コスモス」)

上空直下不安東西南北に白梅しろし紅梅あかし  
短歌5月号『透明な』

透明な透明なものが透明に透明なまま山河を侵す  
同

二人子をくした母がわたしならいりません絆とかいりません  
同

家庭用放射線量測定器(体温計型) 発売されぬ  
同

すでに3・11以後一年以上が経ち、そろそろ少し目先をかえた題材の作品紹介をと思ふのだが、短歌を詠む人の間には今もってこのことにかかわる作品が絶えない。いかに深い衝撃事であったか短歌史上にも一つの画期ともなっていくだろう。

一首目は、上半分の上旬、原発事故の起こったその上空も真下もいやいやその不安はあまねくこの国の東西南北全土に及ぶものだといっている。しかしこの春に花を開いた白梅紅梅はそれぞれの色香を見せてくれたと詠う。だがそれだけにこのなかには不安への情感も強く滲ませているのだ。

二首目は、その不安感の実体が、色もかたちも匂いも重さも音も光も、まったくなくもない正体不明なものであり、それがこの国土の美しく豊かな山河を「ひいては人間をも」知らぬ間に侵し広がっていくことの怖れと不条理とをいっている。

三首目は、実際に大震災のなかで子供を二人とも失くしてしまった母親の心情である。マスコミのキャンペーン化した用語を善意からとはいえず、事者でないものが軽軽にいつとき、被害者自身の未だ癒えない心を残酷に傷つけることにもなる。

四首目は、いよいよこんなものまでが商品化された。ある意味で現在のような状況下では必需品ともいえる。だがこうしたものがあるれば安心だとして原発の再稼動許可につながってはならぬと暗に警告する歌でもある。(新日本歌人「編集長」

## 『聞く力』

阿川佐和子著 (文春新書800円) 連載20年目に入った週刊文春の名物対談「この人に会いたい」で、毎回のびのびとインタビューしている(ように見える)阿川さんが、「人に話を聞く秘訣を語っている。百戦錬磨に見える阿川さんがとても苦手で、今でも毎回対談の前はビクビクどきどきだ、という。だからこそ、20年間の成功と失敗から導き出されたアガワ流「聞く極意」には実践的な知恵がつまっている。「面白そうに聞く」「質問の柱は三本」「あれ

?』と聞いたことを聞く「最後まで諦めない」「オウム返し質問」活用方法……と並んだ目次をみるだけでも参考になる。が、本書は狭い「インタビュー指南書」ではない。人の話を聞くということ

は、誰もが毎日繰り返す営みであり、相手の人生に敬意を払い、互いにながら合う営みだ。本書は、「人は人に聞きながら生きていく」ということを自覚させてくれる。そして本書には著者が「聞く力」を駆使して発見した人間の魅力がちりばめられている。

藤田文(「女性のひろば」編集長) に拉致され、尿道と膣がつながるほど乱暴を受け続け、精神的におかしくなる。傷ついた妹を、慣れないドラッグ売りをしながら、看病する兄。パンコクの歓楽街パッポンには、レイプされHIV感染した女性が仕返しのため、自分のHIV血液が入った注射器を、持ち歩いているという噂がある。確かめるべく町を探訪する。

## 『アジアにこぼれた涙』

石井光太著 (旅行人1800円) 人間、誰しも悲惨で醜悪に見える事物には背を向け、忌避したくなるものだ。だが石井光太は違う。目を見開きカメラを向け探究の筆を伸ばす。

本書は、アジアの路上や売春宿やスラムで生きる人びとの絶望を直視し、希望を掬いあげようとするフォト・ルポ。

インドネシアのジャカルタで、交際していた日本人男性のために性転換手術までしたが、捨てられたゲイの男性たち。

ボルネオ島のコタキナバルで出会ったスーダンの内戦から逃げてきた兄妹。妹は10代半ばで兵士

著者の目線は、彼・彼女らの生きる地平と同じ線上にある。だからこそアジアの底で生きる人びとに、時に無力感を抱きながらも、生きる姿に涙を流し美しいと感じ記録する。未発表写真70枚収録。 守屋龍一





# 映画の鏡

## 圧政越える祖父と孫の自転車旅行

### ブルガリアへ、自然と愛が美しい

### 『さあ帰ろう ペダルをこいで』



©OFF INTERNATIONAL, PALLAS FILM, INFORG STUDIO, VERTIGO / EMOTIFILMand DAKAR, 2008 All rights Reserved

1983年、旧ソ連の圧政下にあったブルガリアへ行くが、孫は記憶喪失アからドイツに移住した息子一家が25年ぶりにブルガリアへ里帰りする途中交通事故に遭い、夫婦は死亡、孫が一人残され

る。祖父は心配して病院へ行くが、孫は記憶喪失になっていた。祖父が孫を記憶喪失から蘇らせるために考えたものが二つある。一つは、バックギヤモンというサイコロを盤上に二つ投げて数字を競うゲームで、孫が小さい頃に教えたものだ。祖父は「コマを進められたら、記憶は戻る」と励ます。もう一つは二人乗り自転車のタ

自然の中を行く二人の姿は実に美しい映像である。このタンデム自転車の旅で記憶を取り戻し、精神的にも強くなった孫はブルガリアに戻り、昔の力ファエで皆に囲まれながら、祖父とバックギヤモンのサイコロを振る。

さて、勝敗は？ このほか、フレンジエフ時代の工場の密告制度に悩む人々や、移住する前に経験したイタリヤ難民キャンプの不自由な生活、そしてタンデム旅行の途中で孫がキャンプ場で美しいタンサーと知り合い、恋におちる話も描かれている。

今年の5月15日は、沖縄が日本に復帰して40年の節目で、マスコミはにぎやかに報道を展開した。ところが、米国にモノを申す姿勢は皆無だ。

## 新聞

## 米国に切り込まぬ「沖縄差別」報道

「米軍基地撤去問題」は日本人だけを論しても、前進も解決もできない。相手は、「世界の盟主」として振る舞い、歴史的に世界各地で紛争の基をつくって自ら反省す

は15日。「『不平等』の固定化でいいのか」(西日本)、「まだそこにある不条理」(めざせ、環境先進地)、「朝日」、「差別」の声に向き合う(毎日)、

「経済と安保を両立させたい」(読売)——見出しを読んだだけで、いかに内向きの主張であるかが分かるだろう。

「世界平和」を築こうという姿勢が見えない。旧態依然の「中国、北朝鮮脅威論」を前提にしている日本のマスコミこそが米軍基地を固定化

沖縄の本土復帰40年とは何だったのか、その問いかける5月15日前後の本土メディアは、以前と変わらない基地の現状や、全国最低の県民所得などを数字を挙げて比較するだけの表面的報道が多かった。

他、復帰前から沖縄で番組を作り続けている元日本テレビのジャーナリスト・森口豁氏ら多彩な顔ぶれが、熱い思いを吐露する。

「集団自決」の言葉の裏に隠された作意はないのか、番組は問いかける。また、軍用地の払い下げや、沖縄振興を口実にした巨額の開発費を巡って狂奔する人々の姿などもあからさまに抉り出し

「世界平和」を築こうという姿勢が見えない。旧態依然の「中国、北朝鮮脅威論」を前提にしている日本のマスコミこそが米軍基地を固定化

## 放送

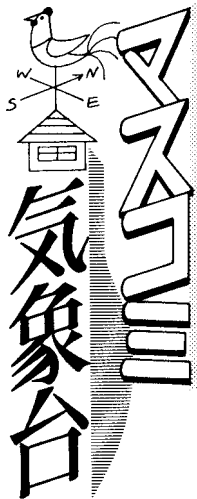
## 沖縄の現実を見すえてきた作品群

そつした中で、5月13日のE.T.V特集「テレビが見つめた沖縄」アーカイブ映像からたどる本土復帰40年」は、沖縄戦知花くらの両氏。この

たどり、数では表せない現実を描き出した。番組ナビゲーターは、東京外語大教授の西谷修、沖縄出身のモデル、知花くらの両氏。この

描いたNHKの「現代のアイデンティティ」から本土地に情熱を燃やす若者が、本土から無視される中で、復帰の意味を問い直す姿を描いた森

「世界平和」を築こうという姿勢が見えない。旧態依然の「中国、北朝鮮脅威論」を前提にしている日本のマスコミこそが米軍基地を固定化



◇総務省、NHKの五輪ネット中継認める  
総務省は、NHKから申請があった「ロンドン五輪大会」一部競技のインターネット生中継について「適当である」との考え方をまとめた。民放連はネット中継を強く批判しているが、総務省は、国内で放送されない競技種目が対象であることから、「適当」との考えを示した。(しんぶん赤旗)5月18日付ほか

◇東電、社外取締役役NHK経営委員長  
東京電力と原子力損害賠償支援機構は、「実質国有化」される東電の社外取締役にNHK経営委員長の数土文夫氏らを内定した。

放送法では常勤の経営委員は兼業が禁じられていたが、数土氏は非常勤のため兼業できる。ただ、このまま続けた場合、NHK内部には「将来的には報道倫理的な問題が起きる可能性もある」と心配する声もある。(朝日)5月12日付ほか

◇受信料収入過去最高にNHKは10日、2011年度の受信料収入が過去最高の6725億円(前年度比127億円増)になる見通しである。と発表した。受信料収入は一連の不祥事を受けて05年度に前年度比386

億円減の6024億円にまで落ち込んだ。未払い者などへの収納業務を強化した結果、11年度は年間計画を44億円上回った。(毎日)5月11日付ほか

◇朝日デジタルで新たに2紙提携  
朝日新聞の電子版「朝日新聞デジタル」を、山陰中央新報と十勝毎日新聞の購読者も月額1千円で利用できるサービスが、6月からスタートする。昨年9月に沖縄タイムスの購読者に拡大しており、今回で、デジタル提携する地方紙は計3社に上場の新聞大手ニユーヨーク・タイムズ(約9億4000万ドル)を大きく上回った。(日経)4月28日付

◇日経電子版、有料会員20万人  
日経電子版の有料会員が20万人を超えた。2010年3月の創刊から2年、国内サイトでは初めて、世界最大の有料報道サイトは100万人強の米ウォール・ストリート・ジャーナル電子版。米ニユーヨーク・タイムズ、英フィナンシャル・タイムズの電子版が続ぎ、日経電子版はそれに続く会員数。無料登録会員数を合わせた会員総数は135万人を超えた。(日経)4月15日付



# あいつぐ大量解雇、共通番号制が狙うもの

迫り来る分断・差別・管理統制社会の足音

労働者の権利守らない地裁労働部

## 横行する不当判決

「こんな判決を出すのなら、東京地裁労働部は『労働部』の看板を下ろすべきだ」

自由法曹団前会長の菊池紘介弁護士がある集会で語ると、会場から「そうだ」と声が上がった。

東京地・高裁では、労働者に冷たい判決が相次ぐ異常事態が起きている。代表事例は日本航空（JAL）だ。同社は、会社更生手続き中とはい

ットと客室乗務員（CA）

165人を整理解雇した。稲盛和夫会長（当時）

さえ、「経営上、解雇は必要なかった」と明言したのに、東京地裁は3月29日と30日、「解雇は有効」との判決を言い渡す。

2010年大晦日に解雇され、CA原告団に加

わった神瀬麻里子さんは、「なぜ？」という想いで、胸が一杯になった。

整理解雇4要件の会社側解釈の誤りについては研究者も含め批判は多い

が、事実認定も杜撰だ。

たとえば「直前の病欠」を解雇基準にした点について、原告は、そんなことをしたら体の不調

を正直に申告できなくなり、空の安全が脅かされると主張したが、判決

は、「にわかに想定し難い」と切って捨てた。

ところが判決の3カ月近くも前、凍てついた旭川空港で乗務前に転倒し

肋骨を折った機長が、無理を押しつけて副操縦士とともに羽田まで操縦した



J C J などマスコミ 4 団体で開催した「共通番号制」に反対する院内集会  
5月14日、衆議院第1議員会館で、酒井憲太郎撮影

共通番号制反対!!  
J C J など 4 団体が院内集会

## 監視国家への道許すな

監視国家への道許すな

！マスコミ4団体（J C J、MIC、マスコミ

9条の会、自由法曹団）は5月14日、東京・衆院

第一議員会館で「共通番号制に反対する院内集会」を開催した。

政府は「税と社会保障の一体改革」の一環として、国民一人一人に個人

を識別する番号をつけ一元管理する共通番号（マイナンバー）法案を国会に提出した。

表向き、行政効率、公平性、利便性がアップする

ように見える。だが、警察など国家による個人情報

の収集を容易にし、

不正利用によりプライバシー権を侵害する極めて危険な法案である。集会で基調報告した坂本<sup>まさ</sup>団弁護士は「様々な個人情報<sup>の</sup>の寄せを目的とする危険な法案。プライバシー保護はできないし、高額所得者優遇の是正にも全く役立たない。さらに社会保障削減の道具として悪用される恐れがある」と指摘した。

田島泰彦上智大学教授も「国家の情報を国民から隠す『秘密保全法制』と国民の個人情報<sup>の</sup>を管理、監視する『共通番号制』が表裏一体として進められている」と警鐘を鳴らした。

阿部裕

「骨折フライト事件」が起きた。「想定外」は、すでに現実化している。日本IBMに退職強要



3月29日、30日に出された東京地裁判決に対し、控訴し記者会見を開いたJAL不当解雇撤回訴訟の原告たち（4月12日、写真提供：レイバーネット）

机を叩き、蹴り、ペットボトルを振り回して退職を迫る常軌を逸した上司の言動を録音によって立証した。それについて判決は、「会社を辞めないという」不誠実な回答に終始する原告に対する奇立ちの現れとしての軽微

な動作又は癖（貧乏揺すり）にすぎなかった」と認定。2カ月で1500人もの社員を退職に追い込んだ外資系大企業に「お墨付き」を与えた。原告の大岡義久さん（JMIU・IBM支部委員長）は、「労働者を守

れない裁判所は、死んだも同然です」と怒る。神瀬さん（前出）は、「日本中の首切りにJAL判決で勢いがついたのではと思うと、悔しくてなりません」と唇を噛む。裁判官は、骨折した機長の操縦する飛行機に乗

りたいのか。わが子が、密室で上司から脅かされても、何も感じないのか。そんな疑問すら、湧く。もつこれ以上、現場で汗する人を無視した、無惨な判決は聞きたくない。

北健一（ジャーナリスト）

J C J 会員が中心となって、デモや集会などインターネット中継してきたグループが、「自由メディア（Fm A）」として発足し、Ustreamに7チャンネルを持つ放送局が誕生した。

その開局記念番組として、「桂敬一のニュースをウテ」をウテ」の第1回が4月18日、第2回は5月8日に、生中継された。

J C J の事務所をスタジオとして、初回はテレビジャーナリストの金平茂紀さん、2回は岩波書店の雑誌「世界」元編集長の岡本厚さんが語り合っ

目は岩波書店の雑誌「世界」元編集長の岡本厚さんが語り合っ

た



桂敬一さんと金平茂紀さん

自由メディア(FmA)  
開局記念番組  
「桂敬一のニュースをウテ」  
生中継、3回目は6月14日



出演者とスタッフ

などで取材して

いた。その眼から見た自衛隊の

対応や、日本の

メディアの報道

について語っ

た。

また「最近

は「核の平和利用」を強

調したのでは、と語っ

た。

放射能汚染の深刻さを

語った。

核分裂の利用という

点では同じである、原

爆と原発の関係につい

ては、「原発が悲惨だ

ったので、なおさら

「核の平和利用」を強

調したのでは、と語っ

た。

る。

のURLで視聴でき

る。

cast

「ニュースをウテ」

の第3回目は、新聞労

連委員長の東海林智さ

んをゲストに6月14日

に放送される。

た。